

ベトナムの半導体産業の未来

12月5日、ファム・ミン・チン首相は、半導体大手の米国エヌビディアの創設者兼会長であるジェンスン・ファン氏と会談し、ベトナムにおける同社の人工知能研究開発センターおよび AI データセンターの設立に向けた協力に関するベトナム政府とエヌビディア間の協定の調印式に立ち会いました。今後エヌビディアは、ベトナムで人材育成を含めた AI 関連の研究開発をサポートすることになります。

12月14日にはチン首相を議長として、第1回半導体産業発展に関する国家指導委員会が開かれ、関係省庁および半導体産業企業が参加しました。現在、ベトナムには50社以上のIC設計企業があり、パッケージングおよびテストを行う工場が7カ所あります。半導体業界向けの装置および材料を製造する企業も事業を開始していますが、これら分野以外の半導体工場はまだありません。科学技術省には、現在ベトナムで行われている半導体の設計、製品テスト、パッケージング以外の分野の研究開発を促進させるための施策が求められています。特に複数の研究室、研究体の共有を支援する仕組みを研究、開発し、2030年までに新世代のコア技術と画期的な特殊チップ製品の研究開発に関するプロジェクトの立ち上げを目標としています。

また、半導体産業の発展において大きな鍵となるのが人材育成です。政府の「2030年までのベトナムの半導体産業の発展のための戦略と2050年までのビジョン」に基づき、教育訓練省と各大学は半導体産業の人材育成プログラムを積極的に実施、これまで約2万人の学生に対してトレーニングを開始しました。同プログラムでは、2030年までに大学卒以上の人材を5万人以上育成することを目標としています。2025年には、半導体関連の専攻を学ぶ学生に対する授業料の減免政策、奨学金政策の改正が検討される予定です。

一方、ベトナムの企業も続々と半導体産業へ進出しています。東南アジアで最も複雑な5G DFEチップの設計に成功したベトナムの通信大手 Viettel は、12月14日の委員会で、Viettel グループがエヌビディアと協力し、ベトナムおよび周辺地域で最大規模となるデータセンターの開発を決定したことを公表しました。既にこのデータセンターは Viettel によってインフラ構築の準備が進められ、2025年には約1億米ドルを投資して機器を購入する見込みです。IT大手の FPT も半導体部門への投資を進めています。エンジニア育成や学生への教育訓練を推進するほか、エヌビディアと協力し、ベトナムと日本で AI 工場を設立する計画です。また、Phenikaa グループが経営するフェニカ大学でもチップ設計のトレーニングコースを開始し、学生の海外研修やインフラ、研究施設への投資拡大を計画しています。

このように、ベトナムでは官民連携の下、半導体産業の誘致・発展に注力しており、今後ベトナムを中心とした東南アジア地域全体がイノベーションの集積地となることが期待されます。

大阪産業局 ベトナムビジネスサポートデスク

株式会社 NC ネットワーク (ベトナム: NC Network Vietnam JSC.)

日本事務所：東京都台東区東上野1丁目14番5号 ユーエムビル8階

ベトナム事務所：48, No.5 Street, Him Lam, Tan Hung Ward, District 7, Ho Chi Minh, VIET NAM